

令和2年度 地域おこし協力隊 活動報告



笑顔あふれる光輝くまち、鹿部。
このまちのために、力になります。

地域おこし協力隊とは

地域の外から様々なスキルを持つ人材を積極的に受け入れ、地域活動を行いつつ、その地域への定住・定着を図る制度。

令和2年度、鹿部町では6名の地域おこし協力隊が活動を行いました。
この冊子では、それぞれの隊員がどのような活動をしていたのかをご紹介します。
隊員は「鹿部のために力になりたい」という気持ちを持って活動を行っています。
まだ鹿部に引っ越してきたばかりの隊員もいますが、その気持ちは同じです。ぜひ地域おこし協力隊への応援をお願いいたします！

活動報告



A級グルメ・新規事業担当

阿部 成史（あべ なるひと）

鹿部の人なんて贅沢なのでしょう。僕が鹿部のたらこやほたてを感動しながら食べていても、地元出身の人には「こんなの普通っしょ」と言われてしまいます。昨年度、東京で開催したイベントでも、鹿部の食材は本当においしい!と絶賛されていました。それにも関わらず、地元の人たちはそれが普通だと思っている……。

地元の人たちに、そんな地元の食の素晴らしさに気づいてもらうことが、A級グルメの第一歩だと考えました。どうすればそれに気付いてもらえるのか。役場の方々と頭を悩ませて誕生した企画が「A級グルメオンライン料理教室」でした。

料理研究家の先生に、オンラインで鹿部の食材を使った料理教室を開催してもらおう、という試みです。ちなみに先生も鹿部の食材に感動されたおひとりです。第一回のレシピは「たらこパスタ」「たらこのアボカドチキン和え」。

結果は大成功! 参加された地元の方々からは、「こんなにおいしかったんだ」「もっとレシピが知りたい!」と大好評でした。鹿部から外に発信するだけでなく、先生のように外の人を感じた感動を鹿部の中に伝えるというのも、A級グルメのひとつの形なのだ、と実感しました。

A級グルメオンライン料理教室は、今後も開催予定です。オンラインなので自宅からお気軽に参加いただけます。皆さんのご参加をお待ちしております!



情報発信担当

北尾 剛（きたお つよし）

今年の2月に愛媛県から鹿部町へ地域おこし協力隊として移住しました北尾剛です。どうぞよろしくお願いいたします。私は、ほかの隊員とは違い、鹿部町へ来て間もないので、まずは皆さんに顔を覚えていただいて、気軽に名前を呼んでいただけるようになりたいなと思っています。

今回は、鹿部町へ移住して感じたことや今後についてご紹介させていただきます。

【感じたこと】鹿部町に移住して右も左もわからない私に、鹿部町の方々が優しく教えてくれたことに温かみを感じました。

【活動内容】まずは、北海道鹿部町の歴史や文化、前浜で水揚げされた新鮮な海の幸などを「知る」「食べる」「触れる」ことを中心に活動しています。その中で、鹿部町初心者の私を感じた感動や感想を写真や動画などを通して多くの方に伝えています。

【目 標】広報・ホームページ・SNSなどを駆使して、鹿部町の特産品であります「昆布」や「たらこ」の美味しさや、鹿部町の魅力を全国各地の皆さんに知っていただき、鹿部町へ来ていただくきっかけ作りができればと考えています。

活動報告



情報発信担当

久保 優太 (くぼ ゆうた)

2年目の令和3年、4月に鹿部町内にて経営コンサルタントとして独立開業。
活動内容1, ツイッターを用いた鹿部町の情報発信: ツイッター上でのアンケート結果は、投票数300人において、7割以上(210人)の方々から情報発信の効果があったとの回答を得る。自身以外の鹿部町内、事業者様のツイッターアカウントの開設およびコンサルティングは6つ。SNS運用マニュアル作成およびWEB上にて公開中。

ふるさと納税のお礼品に関して新規商品マーケティングおよび開発数6つ。1つはまだ未公開。現時点で企画段階のもの5つ。こちらは独立後に商品化。各種お礼品のWEBデザイン、プロジェクト管理。

活動内容2, 七飯町の企業との商品開発: ななエッグを用いた各種食べ合わせ。
活動内容3, 水産加工会社企業ホームページ作成: 3社
活動内容4, 道の駅しかべ間歇泉公園内にて、冬期限定の足湯カフェ開設。
活動内容5, 北海道新聞に記者として参加: 2記事投稿。独立後も継続。
活動内容6, アパレルブランドozicaの開設、販売



体験観光プログラム担当

野田 春香 (のだ はるか)

私の主な活動は、
▶鹿部町の特産品を使用した料理の考案
▶YouTubeやCookpadにて料理レシピの発信
▶新商品開発 です。

去年は、YouTubeで料理動画の配信を開始し、町長と一緒に料理を作ったり、イラストを作成したり、ドローン撮影をしたり・・・。
初めて挑戦したことがたくさんありました!



また、一人では出来なかった商品開発も地域おこし協力隊の仲間が増えたことにより、新たに進めることができました。
4月から協力隊3年目に突入します。レシピ本の発行や料理動画の発信、新商品完成等を目標にしています。
鹿部町で生きていけるように頑張ります!



A級グルメ・写真担当

蛭川 有裕 (ひるかわ ありひろ)

私は今年の7月末に協力隊になりました。
主な任務はA級グルメ構想に伴う「SHIKABEフードカルチャー起業チャレンジャー」として、3年後に自身の自立を目指しています。
とは言うものの、鹿部のことをほとんどわからない状況でしたので、まずは町を知ることから始めなくてはなりませんでした。
そこで、私の専門である写真を使った活動をする事となりました。道の駅しかべ間歇泉公園を始めとした、町内の景勝地や施設などの撮影。また、A級グルメオンラインイベント向けの動画の製作や民放テレビで鹿部町を紹介する動画の作成など映像関係にも携わってまいりました。
これは非常に勉強になり、鹿部町の魅力や足りないもの、そして向かっていく方向などを知ることができました。
また、町内企業様のタラコや干物・イクラなどの商品撮影や店舗撮影なども行い、食材の魅力を知るきっかけにもなりました。
今後も、鹿部町の町と人、食材の魅力を研究し、様々な形で伝えることのできる役割を担っていければと考えています。



観光振興担当

今泉 欣也 (いまいずみ きんや)

魚介美味しいし景観良い。冬場天気も過ごしやすく人も穏やかで良い。と、日々感じています。
私は現在、来年度の活動に向けて調査や人脈作り、コロナ禍での組織づくりや経営等をWEBやオンラインセミナーで学んでいます。
鹿部の観光ですが、コロナの影響で遠方からの観光客が戻るのはもう少し先になりそうと予測しています。インバウンド(訪日外国人旅行者)は鹿部は幸いにもあまり影響していないと感じますが、渡航が国どうしの取り決めがあり戻りはもっと先でしょう。
そこで、本年はマイクロツーリズム(自宅から1時間から2時間圏内の地元または近隣への宿泊観光や日帰り観光)で鹿部のヒト・モノ・コトのファンづくり的を絞ってそれらをお伝えできるカタチ。訪れたい方が事前に予習できるバーチャルツアーが良いのではと感じ、それを実践しようと考えています。
初期投資が必要なもので中々難しいですが、鹿部の資源「温泉」を活用したサウナが面白いでしょうね。
それと並行して任期終了後のための組織づくりや事業立ち上げを考えていきます。